

平成28年度 第3回グローバル教育推進委員会議事録

平成28年度テーマ：主体的な学びや協働的な学びをととした学習の在り方について

- 授業参観
- 授業のふり返し

授業のふり返しについて

- ①各教科担当から報告
- ②委員からの感想および質疑

【質疑】

Q. 3年目の取組の中でビルドアップされている。そのためには、先生方の情報共有の時間も取ってきたと思うが、教科会はどれくらいの頻度で行っているのか。また、その中で、どのような話し合いがされているのか。

A. 英語科は週に1回。1時間ほど実施している。CAN-DO リストはこのままでいいのか、生徒の学びをどのように見取るのか、今年の授業をふり返し、次年度はどのように実施するのかといった計画作成の時間となっている。

Q. 週1回で、時間は足りているか。

A. 足りないのが現状である。

【感想・助言】

- ・英語の授業を参観したが、プレゼンテーションに向けて練習するという授業で、大変よかった。このような授業では、通常、プレゼンテーションさせる部分を参観することが多いが、今回のようにその事前準備の段階を見せていただけたことが良かった。短い間で、生徒自身が自分の成長を実感できる形式になっていた。(生徒の自信につながっていた)
- ・小学校で身に付けた力を効果的に使っている授業であった。
- ・自己評価の基準について、生徒にわかりやすいものとわかりにくいものがある。どこがわかりにくく、どうすれば理解できるか、授業を繰り返すうちに明確になってくると思う。明確にさせたことで、授業のフォーマットを作っていくと学校オリジナルのものができ、生徒の力もさらにあがってくると思う。
- ・トピックの上にある概念から学習指導案を作成してはどうか。例えば今回の授業で考えると「高知の名所を学ぶ」と「高知の名所で学ぶ」では違うものになる。「名所で学ぶ」授業であれば、『宣伝は人々の選択肢に影響を与える』や『効果的な宣伝には共通した特徴がある』、『良い宣伝は人々を引き付ける』ということ学ぶことができる。この概念を学ぶと、他の領域や教科でも応用できる。つまり、生徒の生きる力の育成につながる。
- ・パーソナルケアの必要な生徒がいて、教員一人では対応しきれないと思う。

- ・教育再生実行会議において、支援の必要な生徒のために義務教育では基礎定数に入れることが決定した。(13人に1人)
- ・単元としての計画が良く、授業の流れが良かった。指導者が、今の授業に自信をもって堂々と授業ができるようになってきている。改善としては、与えられたものではなく、即興性が必要である。例えば、先生の small talk をモデルとして聴くことが大切。
- ・フィードバックすることについては、本人が成長するためのフィードバックになるように、話しぶりだけでなく、内容に対してもお互いが深められるようにしてほしい。
- ・授業後半の進め方は、生徒をどうマネジメントするか工夫が必要である。例えば、プレゼンテーションの時間設定をする。完璧な準備をしなくても良い。特に中学生には授業で失敗させたくないという思いから、細かく準備をさせがちであるが、多少失敗させても次の成長のためという発想で取り組んでいただきたい。
- ・数学について、すばらしい授業であったが、生徒に考えさせたい肝になる部分を先生が説明していた。生徒が議論する場があれば、さらに良くなると思った。
- ・多忙な中で、教科会だけに時間を割くことはできないと思うので、少ない時間でもできるように、教科会の中身を検討してはどうか。そうすると、さらに課題が見え、集中できるのではないか。個々の先生方の力量はアップしてきている。これを、全体として(3学年、6学年をとおして)さらに深めていけるような時間の使い方にしていただきたい。
- ・探究型学習については、評価の部分が非常に大事であり、今後の課題である。これは、全国の知識構成型ジグソー法を実施している学校でも、同様の課題となっている。この手法をとおして、生徒の学び方は変化してきたが、それをどのように見取るかについては、さらに研究をしなければいけないと聞いている。この3年間積み上げてきたことに基づいて、進めていくと思うが、例えば「概念から学ぶ」と、評価もしやすくなるのではないかと思う。